

会報



令和4(2022)9.9
No.144

〒420-0853 静岡市葵区追手町9番18号 静岡中央ビル6階
TEL:054-255-4678 FAX:054-255-4699



URL <https://www.hs-pta-shizuoka.net/>
E-mail post@hs-pta-shizuoka.net



会長あいさつ

静岡県公立高等学校PTA連合会

会長 三輪 高太郎

令和4年度静岡県公立高等学校PTA連合会の会長を拝命いたしました三輪 高太郎と申します。日頃は本会の事業にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

厳しい暑さが続いた夏も終わり、まだ残暑が残る毎日ですが、高校生のみなさんは、新学期を迎え新たな気持ちで通学し、本格的な学業、部活動となる時期かと思えます。

現三年生は入学時からコロナに翻弄され、自分たちが想像していた学校生活とは違ったこともあったでしょう。きつと保護者や先生方も同じだと思えます。まだアフターコロナではなくウィズコロナが続きますが、かけがえのない高校生活を送ってもらうために、もう「コロナ禍だからしょうがない」というネガティブな考えを「コロナ禍だけどうしよう」とポジティブにみんなが変えていかないといけないと感じています。

さて、県高PTA関連行事においては去る6月1日に対面による総会と研修会が行われました。本研修会では、例年、PTA・保護者の資質向上を目的として、さまざまな分野の方に講演をしていただいております。今年も、高P連創立60周年という節目の年にあたり、過去から現在までを振り返り、これからのPTA活動の在り方について考えるための研修会といたしました。

一昨年度からの新型コロナウイルス感染症、教育界ではGIGAスクール構想、新しい学習指導要領などの教育改革、また、世界に目を向ければロシアによるウクライナ侵攻など、世界全体の政治・経済はもちろん人々の生活が大きく変化しています。そして、子供たちの学校生活や家庭生活においても、様々な課題が生じ、お悩みを抱える保護者の方も多いと思います。そのような状況を踏まえ、「アフターコロナ時代の家庭と学校を考える」というテーマを設定し石川結貴先生による基調講演『アフターコロナがもたらす子どものスマホ危機』とパネルディスカッションを行いました。講演の中では高校生の3人に1人は一日5時間以上インターネットを使っているという話があり、1年で換算すると2か月間にもなるということに驚かされました。コロナ禍の中で、動画視聴やSNS、ゲームなど長時間化しているようです。スマホを与えている保護者としてもどんなアプリを使用しているかを理解し、子供と時間の使い方についてしっかり話し合う必要性を感じました。3人の前年度PTA会長によるパネルディスカッションではなかなか保護者どうしが顔を合わせることができない中、工夫をしてPTA活動をしたことや、保護者も時代に合わせてデジタルツールに挑戦しないとけないとお話もありました。

した。久しぶりの対面での開催ということもあり盛況のうちに終えることができました。私と高P連との関わりは、浜松北高校PTA会長を務めた後、小山・関二代の会長の下、副会長を務め、本年度で4年目となります。ここ2年間はなかなか活動がままならないこともありましたが、我々も試行錯誤しながら生徒の健やかな成長とPTA活動の更なる充実と発展のため全力を尽くす所存でございます。そのためにも皆様のご理解とご協力を仰ぎつつ高P連役員一同が一致団結して本会の運営に取り組んでまいりますので、今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

Contents 目次

静岡県公立高等学校PTA連合会 会長あいさつ	1
令和4年度 静岡県公立高等学校PTA連合会報告	
静岡県公立高等学校PTA連合会 総会・研修会	2
東海地区高等学校PTA連合会 総会・愛知大会	4
学校・PTA紹介	
静岡県立葦山高等学校・PTA	5
静岡県立静岡農業高等学校・PTA	5
静岡県立磐田南高等学校・PTA	6
静岡県立静岡北特別支援学校・PTA	6
高校生の健康・安全に係る現状と取組 県教育委員会 健康体育課	7
社会総がかりで取り組む教育 県教育委員会 社会教育課	7
令和4年度 単位PTA 会長名簿	8
令和4年度 高P連 役員名簿	8



令和4年度 静岡県公立高等学校PTA連合会 報告

- 1 静岡県高P連 総会・研修会 高P連創立60周年記念事業
期日 6月1日(水) 午後1時30分から 会場：ホテルグランヒルズ静岡
- 2 東海地区高P連 総会・愛知大会
期日 6月17日(金) 会場：名古屋市公会堂
午前10時から総会、午後1時から愛知大会(講演・研究協議)
- 3 第71回全国高P連大会 石川大会(現地開催・オンライン開催併用)
期日 8月25日(木) 午後：開会式・表彰式・分科会
8月26日(金) 午前：記念講演・閉会式
会場 いしかわ総合スポーツセンター・石川県産業展示館4号館
※石川大会の報告は、次号145号に掲載します。

静岡県公立高等学校PTA連合会 総会・研修会

コロナ禍で開催が危ぶまれていましたが昨年度に続き、感染防止対策を徹底することにより本年度も、無事、開催することができました。

【総会】

(1) 会長あいさつ

日頃の本会の事業に対するご理解とご協力のお礼を述べます。昨年度、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置などが発令され、東海大会・全国大会をはじめとする様々な行事が中止となった。特に新3年生は入学以来コロナの影響により、様々な制約を強いられた2年間を過ごし、最終学年である今年度は学校生活の思い出として残る体験をしていただきたい。

学校現場で活動される皆様に、高P連としてどのようなご支援ができるかを考えていきたいので、率直なご意見をお聞かせいただければと思う。

本年度で、静岡県公立高等学校PTA連合会は創立60周年を迎える。昭和37年度に発足して以来、全国高P連への加盟や名称変更を経て現在に至っており、60年の長きにわたり、発展してきたのは、歴代の会長・副会長など諸先輩方のご尽力はもちろん、児童生徒を第一に考え、日々活動して下さった



化している現状を考えると、PTAの役割が深まりこそすれ、低下することはないと思います。

生徒のために何ができるかを考え、皆様と共にこの難局を乗り越えるための施策を考えたいので、今後ともますますのご支援ご協力をお願い申し上げます。



高P連 会長 関 隆之

ている何万人もの会員お一人おひとりの努力の賜ものです。PTAという組織に対して様々な議論がある昨今ですが、学校や生徒を取り巻く環境が急激に変

(2) 表彰式

各単位PTA活動の功績を称え、単位PTA会長退任者102名と高P連役員退任者4名の合計106名の方に、会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

被表彰者を代表して、袋井特別支援学校前PTA会長石黒加奈様からご自身の経験をもとにお礼の言葉がありました。

昨年度、全国高等学校PTA連合会会長表彰団体に選ばれたことに感謝します。袋井特別支援学校は、知的障害・肢体不自由の児童生徒が学んでおり、PTAは小学部・中学部・高等部の会員により一つの団体として活動しています。年齢や障害は違うが、PTA会員の思いはいつも同じで、子供たちの笑顔を守りつとりたい。卒業後も家族や行政機関などの支援が必要となり、現実的には親が年を取り我が子を残し



代表者 石黒 加奈 様

てこの世を去らなければならぬ不安があります。だからこそ今、親として何ができるのかをPTAとして常に考えています。縦と横のつながりをしっかりと

(3) 祝辞
県教育委員会教育長 池上重弘 様
はじめに、会員の日頃の教育活動へのご理解とご協力への御礼、高P連表彰受賞者に対するお祝いの言葉を述べたい。

・教育をめぐる課題が多様化している。新型コロナウイルス、ICTを活用した学習環境、経済的な格差を抱えた子供に対する学びの保障、ヤングケアラー等。・国籍・性別・障害の有無といった多様性(ダイバーシティ)への配慮。ここが違うからダメといって排除するの

でなくて、この部分で私たちの仲間になれると包み込むように考えるインクルーシブ。

・10年前には、言葉の存在すら知らなかったようなことが今日の教育現場において、顕在化している。教育委員会では、社会やあるいは他の人のために自らの能力に応じてがんばることができ、[有徳の人]の育成を目指して大綱を作成した。副題は「誰一人取り残さない教育の実現」



・父親が小・中学校とPTAの会長を務めていた。PTA会長を通じて地域とつながり、また、子供の私たちと学校をうまくつないでくれた。PTAは学校と

家庭と地域をつなげる非常に重要な役割を持っている。

・子供たちが地域や社会の一員として活躍できるようにPTAの皆様とともに取り組んでいきたい。引き続き、ご理解とご協力をお願いしたい。

高P連 第8代会長 西原茂樹 様

総会、60周年の記念すべき日にご招待いただいたことに対するお礼。これまでの会長・副会長のOBを代表してお祝いの言葉を述べたい。

高P連との関係は、榛原高校PTA副会長の後、県連高P連副会長を経て会長をさせていただいた。当時、芦川清司高P連会長から「PTAはやったほうがいいぞ、世のため人のため、子供のためになる。」と誘われ「じゃ、やります」とすぐに決めた。

会長になってやったことを今でも3つ覚えている。一つ目が、当時、高校生が自転車でお年寄りに衝突してその方が亡くなってしまった。そのような事故の補償のために、芦川会長と相談して、高校生全員に損害賠償制度をつくった。また、児童生徒が不慮の事故等で亡くなった場合の香料。学校の教室にエアコンを導入することに関する議論。高P連で活動させていただいたことが、私自身、学びになった。



高校でこそ、英語力、データ・数値を読み込む力、コミュニケーション能力を伸ばしてほしい。大事なものは、PTAの後ろにいる地域の社会人。その人たちがPTAを支援したり、話し合いをしながら、高校生のレベルアップにつ

なげていってあげればと思う。皆様には高校生の成長を夢見ながら、静岡県の教育、また、子供たちのためにがんばっていただきたい。教育委員会も是非ご支援のお願いしたい。

【祝電披露】

第9代高P連会長 豊岡武士 様
(三島市長)

(4) 議事

前年度の事業・決算報告、役員改選、本年度の事業計画・予算について承認されました。本年度は、県高P連の会長・副会長等が改選されました。事業・予算については高P連のホームページからご覧いただけます。

高P連創立60周年記念事業

【基調講演会】

演題 アフターコロナがもたらす

子どものスマホ危機

～SNS、ゲーム、動画、デジタル世代の子どもにどう向き合うか～

講師 石川結貴 氏 ジャーナリスト

石川氏は、静岡県伊東市出身で、家族や教育問題、児童虐待や青少年のインターネット利用などをテーマに豊富な取材実績を持ち、雑誌の連載や特集記事の執筆、コメントライターとしてテレビにも出演されるなど、家族問題の第一人者として幅広く活躍中。

・今、子供たちの生活を大きく変えているのが、スマホやネットの問題。
・私たち大人がわからない、関係ない、子供が勝手にやっている、あと知らないという姿勢ではなく、今一度、子供たちと真に向き合って、彼らの成長を支えていくために、何が大切なのかを一緒に考えていきたい。
・総務省が毎年行っている調査では、コロナ以降、ネット利用が増えている。平日、小学生で約2時間、中学生で約3時間、高校生で約4時間。高校生の約3人に1人は、1日5時間以上。スマホゲームで遊ぶというのは、高校生になって始まったことではなく、小学生・中学生時代から、生活習慣となつて子供たちに根付いてしまっている。
・そこまでスマホにとらわれてしまう理由は何なのか。スマホというデバイス特有の問題がある。脳内報酬系が刺激されて耐性ができる。私たちの脳の中に報酬系という部分がある。ここがスマホを使うことによって活性化する。報酬系とは、何かご褒美をもらった時

にやる気が出てくる機能を持つ。本来はテストでいい点を取ると、次もがんばるぞとなるのだが、スマホ利用では「もっと使いたい、遊びたい」と依存傾向につながってしまう。



・今日、皆さんに覚えて帰っていたきたいのは、ビジネス戦略。基本的にスマホのアプリ、ネットのウェブサービスというのは、無料のものが非常に多い。ユー

ザーの心理を巧みに利用して取りこんでいくことをアプリの会社や運営会社がやっていると、特に顕著なのはゲームゲームをするといういろいろなプレザントがもらえる。ゲーム会社は開発段階で脳科学者や心理学者をプロジェクトチームに入れて、ゲームを作っていると言われている。それを子供たちは無防備に使い、結局、逃れられなくなってしまう。
・コロナで在宅時間が増え、友達と話す機会が減った。コミュニケーション手段がリアルからバーチャルに、このコロナで一気変わった。
・スマホ自体が子供たちにダイレクトにお金を与えてしまう時代になっている。今の高校生はスマホを使って自分の力でお金を得ることができ。また、親以外の世の中の人ととんとつながっていくことができる。
・親子できちんと何ができて、何ができないかきちんと整理して、親が一方的にダメではなく、ゲーム、ユーチューブがやめられないのは、どんな問題、事情があつてやめられないかを子供と少しずつ話あつていく。特に、いじめ・SNSでの見知らぬ人とのトラブル・

性的被害。親としては引いてしまいうな話題は、子供が一番困っている問題で、子供から言えない。子供が言わないから大丈夫だと考えない。子供が言わない時こそ親の注意が必要。親側の歩み寄りを子供に伝えてほしい。

・私の長年の取材の中から、一番感じていることは、何よりも自分は生きていていいんだ、必要とされている人間なんだという自分自身に対する強さ、自己肯定感を持っていないと、何をしても、これからの時代を生きていくのは難しい。ぜひ、子供たちを社会と関わらせてほしい。

・子供たちをこの機械から解放するために、彼らが本当に力を発揮できる場所、発揮できる機会やできる場所があることを、みなさんが言葉で伝えて信じている、応援している、いつでも力になる、そういう言葉をかけながらこれから一緒にがんばろうねという気持ちで接してほしい。

【パネルディスカッション】

「テーマ」

「アフターコロナ時代の家庭と学校を考える」

「参加者」

- 司会・コーディネーター
フリーアナウンサー 長谷川玲子 氏
パネリスト 令和3年度PTA会長
富士市立高等学校 深澤 秀文 氏
静岡県立浜松北高等学校 中里 功 氏
静岡県立袋井特別支援学校 石黒 加奈 氏
助言者
ジャーナリスト(講師) 石川 結貴 氏

コーディネーター長谷川さんの絶妙な進行により、会場の参加者全員が一体となって、今後の家庭と学校につい

て考えることができ、今回のパネルディスカッションの趣旨を達成することができました。

はじめに3人のパネリストから、講演の感想、自己紹介と学校・PTA活動の紹介があり、続いて、コロナ禍のPTA活動についてパネリストと会場参加者からお話を聞きました。「必要な活動を見直す機会になった」「総会・研修会・進路説明会などをオンラインで開催した」「会合が開けず名前を覚えることに苦労した」「文化祭で地域の方とコラボできた」。次にアフターコロナについて「PTA役員は女性が多く働く人も増えてきたので、ICTを使って時間を有効に、効率よくつなりたい」



「成人年齢の引き下げに伴う消費者トラブルが心配」。どの方も前向きな意見で、助言者の石川様からも、他の事例や適格なアドバイスをいただきました。

東海地区高等学校PTA連合会 愛知大会 報告

【日時】 令和4年6月17日(金)
午後一時から四時まで

【会場】 名古屋市公会堂

【参加者】 四三五人(静岡県一〇二人)

一昨年度の三重大会、昨年度の静岡大会が中止となり、今年も心配されましたが、3年ぶりに愛知大会が無事、開催されました。

【講演】

演題

「オール1の落ちこぼれ、教師になる」
講師 宮本 延春 氏(作家、元高校教師)

身振り手振りを使って、壮絶で波乱万丈な人生をとんでも明るくユーモアたっぷりに話していただきました。

人生の恩人となる建設会社の親方に出会い、親方に大切にされ、親方のために本気で働くようになり、働くという事の本当の意味を知る。23歳の時、アインシュタインのビデオを見て、人生に劇的な変化が訪れた。小学校のかけ算の勉強を始め、24歳から定時制高校へ。その後、名古屋大学、大学院で博士号を取得。教師として母校の教壇に立つことになる。

自身について、心理学者マズローの五段階欲求説を例にあげ、生活が安定して、仕事も評価され、そしてその人のためになんぼる、自己実現に向けて気持ち段階的に変化していった。

一人きりになった時にどんな生活が待っているか、周りの人からこれまで何をしてもらっていたのか考えてください。当たり前の生活の中で感謝の気持ちを持つことが大切。一日に5回は



ありがとうという言葉を使ってみよう。一生懸命やっても報われないことはあるが、失敗でも気付きや学びは得られる。本当の失敗は何もしないこと。

【研究協議】

後半の研究協議では、愛知県と三重県の2校から学校紹介とPTA活動の発表があり、その後の質疑応答も活発に行われました。

【発表1】

愛知県立尾西高等学校PTA
開校以来続いている伝統行事「闊歩大会」は木曾川沿いを約30キロ歩き切る過酷な行事で、PTAは多くの場所で健康チェックや所在確認、道路横断の安全指導、応援の声かけ、写真撮影などの活動の記録、木曾川の清掃などを行っている。



【発表2】

三重県立四日市商業高等学校PTA
広報部・文化部・研修部があり、PTAだよりの発行、体育祭への参加、文化祭での出店などの活動を行っている。コロナ禍で使われなかった予算を特別教室のエアコン設置に利用、校舎見学により女子トイレの環境向上を要望、登校時に校門で生徒と一緒に「いじめ防止ピンク運動」を展開するなどコロナ禍でも工夫した取り組みをした。



静岡県立葦山高等学校

学校紹介



本校は、令和5年に創立一五〇周年を迎える静岡県内で最も古い歴史と伝統をもつ高校です。明治6年、葦山代官江川太郎左衛門英龍（坦庵）公の高弟で時の足柄県令柏木忠俊が開校しました。坦庵公を学祖とし、銘であった「忍」を校訓としています。本校の敷地は戦国武将・北条早雲ゆかりの葦山城跡内にあり、葦山城本丸跡からは富士山を背景に本校を望むことができます。昭和45年に県内で二校目となる理科を設置し、理数科で培った探究学習の伝統は令和元年度、普通科の文系探究コースの設置につながりました。理数科はアメリカを、文系探究コースはシンガポール等を修学旅行の研修先とするなどグローバル教育にも力を入れています。

校内にそびえ立つ志龍講堂には食堂や自習室を備え、学習と部活動との両立に努める生徒の学校生活を支援しています。このような環境の下、ほとんどの生徒が国公私立大学に進学し、地域を始め、国内外の様々な分野で活躍する人材を輩出しています。

校長 小川 圭一



PTA紹介



本校PTAでは、学校と一体となって様々な活動の支援を行っています。特にキャリア教育の推進が盛んです。一年生を対象に様々な分野で活躍するOBをお呼びして、自らの高校時代から現在の仕事内容まで講義してもらうことで進路の指針とする「職業レクチャー」、二年生対象の「大レクチャー」では、全国十数校の大学の先生方に模擬授業を行ってもらっています。これらの支援活動が認められ、文部科学大臣よりキャリア教育に貢献したとして表彰を受けました。また、卒業生から寄付された制服・体操服を活用した「制服リサイクル事業」や広い校内や通学路の清掃・草刈りを行う「クリーンアップ事業」など、保護者・先生方の積極的な協力が成り立っています。



ため、そして何より生徒たちの学習・生活環境充実のために、PTAは柔軟に支援を続けていきます。

PTA会長 前田 泰宏

静岡県立静岡農業高等学校

学校紹介



静岡農業高校は、大正4年に設立され、平成26年に創立百周年を迎えた。昭和41年に定員240名となり、令和4年度に至るまで続いている。平成6年度には学科改変が行われ、生産系（生物生産科、生産流通科）、環境系（環境科学科）、食品系（食品科学科、生活科学科）の3学系5学科となった。

静岡農に入學すると、新入生全員が取り組む「農業と環境」の授業が始まる。毎日朝7時半には登校し、1人1坪ほどの畑に植えられた夏野菜の観察や水やりを行う。通称「朝観察」と呼ばれ、このことから農作物の栽培基礎、農業の基本を学んでいる。その他特色ある教育として、近隣専門学校とのダブルスクールの開催や、資格取得に向けた検定の実施などにも力を入れている。

新たな取り組みとして、本校農場においてJGAP認証やJGAP静岡版「静岡認証」を取得（認証）しており、教員・生徒共に一丸となって、安心で安全な農作物栽培をおこなっている。

校長 望月 康弘



PTA紹介



静岡PTAは、例年20人前後の本部役員を中心に、文化・安全・進路の3つの委員会に分かれ活動しています。文化委員会は、年2回のPTA会報の出版と研修旅行（名古屋、東京、山梨等）の企画と運営を行います。委員会は、進路の安全を守っています。進路委員会は静岡県内外の大学や生徒の就職先となる企業への進路見学会と、教育講演会を補助し、会員と生徒の進路決定の一助となっています。学校祭では、のし餅や磯辺焼き等のお餅類、鉄板を使い焼き上げた焼きそばとフランクフルト、前日から準備して作った手作りこんにやく等を販売し、静農祭を大いに盛り上げています。

一昨年からコロナ禍の影響で生徒の支援はできていませんが、新しい生活様式を踏まえ、これからも活動していきたいと思っています。

PTA会長 中川 貴男



静岡県立磐田南高等学校

学校紹介



本校は、大正11年に開校し、これまで多くの人材を輩出してきた伝統校です。本年度は学校創立百周年を迎え、11月1日には、磐田市民文化会館「かたりあ」で記念式典を挙げる予定です。

全日制普通科、理数科、定時制普通科を併置し、人格の陶冶を教育目的とし、高いこころざしを持った人間性豊かな生徒の育成を目指しています。現在、全日制九三八名、定時制一三二名(四月一日現在)が学んでいます。

全日制では、社会のリーダーとして貢献できるように、高い目標を設定して学習し、国公立大学を中心とした優秀な進学実績をあげています。また、生徒は、はぐま祭(文化祭)などの学校行事や、部活動にも積極的に取り組むことで、調和のとれた豊かな人間性を身に付けています。陸上競技部、ビジュアル部、地学部、生物部は全国レベルの活躍をしています。

定時制は、一般教養を高める生涯学習の場として地域社会から期待され、定員を超える志願者を集めています。また、三修制の充実にも努めています。現在、新校舎の建築中で、令和五年度からは、新しい校舎での生活が始まります。

校長 野村 賢一



PTA紹介

本校のPTA役員は、16人の常任理事、11人の理事、及び60人の地区理事で構成されています。(令和四年度)地区理事は、21の地域(支分部)から選出され、任期は三年です。生活委員、保健委員、研修委員、国際理解教育推進委員のいずれかの委員となつて活動しています。



各委員の活動内容は次のとおりです。

- 生活委員：街頭指導・巡視指導
- 保健委員：健康教育講座と学校保健委員会への参加
- 研修委員：各種指導者研修会への参加

参加

○国際理解教育推進委員：マウンテンビュー高校訪日団の受け入れ業務
また、六月開催のはぐま祭(文化祭)では「PTAカフェ」を出店し、来校者に軽食を提供しています。例年、五万円程度の収益があり、生徒会に寄付してきました。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、令和二年度から三年間、カフェの出店は自粛しています。これを機会に、文化祭への参加方法の変更を検討する必要があります。

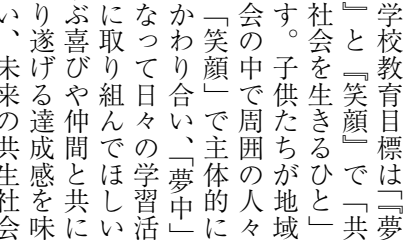


また、PTAとして、本校の進学指導への経済的な支援も行っています。

PTA会長 原 徹

静岡県立静岡北特別支援学校

学校紹介



本校は、昭和49年に開校し、令和5年度には開校50年目を迎えます。小学部1年生から高等部3年生までの児童生徒400人が在籍しています。静岡県内で、一番児童生徒数が多い特別支援学校です。



学校教育目標は「『夢中』と『笑顔』で「共生社会を生きるひと」です。子供たちが地域社会の中で周囲の人々と「笑顔」で主体的にかかり合い、「夢中」になって日々の学習活動に取り組んでほしい、学ぶ喜びや仲間と共にやり遂げる達成感を味わい、未来の共生社会の中で、その子の良さを生かしてたくましく生き抜く力を付けてほしいと考えました。

また、本校は、学校がある麻機地区の資源を活用する学習「麻活」も積極的に取り組んでいます。本校の児童生徒にとって「麻機遊水地は宝物」です。地域の方々と保護者の皆さんの応援をいただきながら、地域に根ざした学校として更なる発展を目指しています。

校長 原田 満紀

PTA紹介

本校のPTAは、本部16人、理事14人を中心に、施設・安全、保健・給食、広報、進路対策の4つの委員会から組織されています。新型コロナウイルスの影響で、活動が制限されることもありましたが、みんなで工夫しながら各委員会の活動を行っています。



施設・安全委員会、募金活動を行ったり、障害児がいる家庭に役立つ防災情報を集め、発信したりしています。保健・給食委員会は、保健講演会の実施、

広報委員会はPTAだよりの発行。進路対策委員会は子供たちが学校を卒業した後の生活を知るために施設見学会や進路講演会を実施しています。他にも環境整備や図書の実施等、「子供たちのために」できることを活発に行っています。

予測困難時代と言われる今だからこそ、子供たちが「夢中」に「笑顔」で学校生活を送れるようにすることを軸に、保護者と教職員がより良く繋がり活動をしていきたいと考えています。



PTA会長 太田 昌樹

「高校生の健康・安全に係る現状と取組」 県教育委員会健康体育課

県教育委員会健康体育課では、高校生の心身の健康管理及び安全管理について、各学校等と連携しながら、課題の解決に向け、業務にあたっております。

ふじのくに防災人材育成事業 「被災地訪問研修」について

①事業設立の経緯と概要について
県教育委員会では、東日本大震災が発生した平成23年から毎年8月に岩手県を訪問し、ボランティア活動を通じて被災地の方々と交流を続けてきました。平成28年度からは、「被災地訪問研修」として、防災人材の育成に取り組みんでいます。この研修は、県内の高校生が現地での学びを通じ、自ら設定した防災テーマについて探求を重ね、その成果を学校や地域等に向けて発信する貴重な機会となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった令和2年度を除き、これまで延べ10回の訪問を実施してきました。

②研修内容について
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、時期を例年の8月から12月へと変更して実施しました(参加生徒は県内の高校生20名)。

まず、事前研修によって研修目標の整理を行った後、2泊3日の行程で岩手県・宮城県を訪問しました。初日に訪問した岩手県釜石市の「いのちをつなぐ未来館」では、震災当時、釜石東中の2年生であった川崎杏樹さんにガイド役を務めていただき、当時と同じ避難路を歩きながら、迫り来る津波の恐怖についてお話を伺いました。復

興祈念公園、長洞元気村を訪問しました。復興祈念公園では、パークガイドスタッフの方の案内により、震災遺構(津波伝承館、奇跡の一本松、巨大防潮堤、旧道の駅タビック45)を視察し、命の大切さについて、自分の目で見て歩いて体感しました。

最終日には、宮城県気仙沼市の東日本大震災遺構伝承館を訪問した後、石巻市に移動し、津波によって児童74名、教員10名の命が奪われた旧大川小学校跡地を訪問しました。語り部を務めていただいた「大川伝承の会」共同代表の鈴木様からは、事前防災の大切さと命を真ん中にできるかどうかが学校現場に求められているというお話がありました。

その後、事後研修において研修テーマのまとめと発表用資料の作成を行い、参加生徒はそれぞれの所属校に戻って成果報告会を行いました。

③今後に向けて
参加した生徒達は、高い防災意識を持ち、大変意欲的な取組を見せてくれました。また、研修中に実施した民泊体験では、お世話になった御家庭の皆様にも温かく迎え入れていただき、生徒達からも、もっと時間が欲しかった、もう1泊したかったという感想が多く聞かれました。震災で得た教訓や、家庭における防災対策について学ぶことはもちろん、初めて訪れる地で人の温もりに触れた今回の経験は、これからを担う高校生にとって、かけがえのない財産となるはずですよ。

今年度の被災地訪問研修は、8月16日(18日)に実施する予定です。大規模災害を風化させない、そして、地域防災の主体として活躍できる高校生の育成に向けて、今後とも取り組んでまいります。

「社会総がかりで取り組む教育」 県教育委員会社会教育課

県教育委員会社会教育課では、学校・家庭・地域等の連携による社会総がかりで取り組む『有徳の人』づくりを進めています。

地域ぐるみの教育の推進

PTAや元PTAの役員の多くの方々や、「地域学校協働活動推進員」や「家庭教育支援員」として、学校・家庭・地域をつなぎ、地域の教育活動の中心となり、未来を担う子供の育ちを支える人材として活躍しています。

○地域学校協働活動

地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるために、「地域とともにある学校づくり」として、「学校を核とした地域づくり」を目指して、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進しており、授業や部活動、キャリア教育等の地域による支援、子供たちの地域行事への参画などを実施しています。また、放課後等に学習支援を行う「しずおか寺子屋」では、大学生や高校生が学習支援ボランティアとして参加し、活躍しています。地域で育った子供が、地域の子供を育てる人材となる「教育の循環」が生まれています。

○家庭教育の支援

すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、「家庭教育支援員」の養成や「家庭教育支援チーム」により学校と連携した支援活動を推進しています。「家庭教育支援員」は、保護者の身近な存在として、家庭教育講座等を開き、子育ての悩みを軽減や保護者同士の関係づくりを進めています。

青少年の健全育成

「親子で話そう!!」わが家のケータイ・スマホルール」の普及や青少年の体験活動の推進、不登校やひきこもりなどの困難を有する子供・若者の支援、「青少年声掛け運動」の実施など、保護者や地域団体等と協力し、青少年の健全育成に取り組んでいます。

○「フィリタリング」の利用促進

コミュニケーションサイト(SNS等)の利用による様々なトラブルや自撮り被害などから子供を守るため、フィリタリングの利用やペアレンタルコントロールの活用や普及啓発に努めるなど、青少年を取り巻く環境整備に取り組んでいます。

高校生	R3 99.5% (R2 99.4%)
中学生	R3 81.3% (R2 81.1%)


(県学校対象調査)

○静岡県ネット依存度判定システム
すべての子供が誰でも簡単にネット依存度リスクを判定できるシステムを公開しています。判定結果は、あくまで目安ですが、御家庭でネット利用のルールづくりや、お子さま自身の生活習慣の改善に御活用ください。

小学生	31.7%
中学生	44.9%
高校生	52.0%

(R3ネット依存度判定システム結果)

※県社会教育課ホームページから資料等がダウンロードできます



静岡県 社会教育 検索

令和4年度 単位P T A会長名簿

NO.	学校名	会長氏名	NO.	学校名	会長氏名	NO.	学校名	会長氏名	NO.	学校名	会長氏名
1	下田	田 小本曾達也	31	御殿場特別支援	柳井孝之	60	静岡北特別支援	太田昌樹	91	磐田西	斎藤佑美
2	下田・南伊豆分校	杉山京子		沼津特別支援	草谷修一		〃 南の丘分校	鈴木有香	92	天竜	竜 青田実丘
3	松崎	笹本美津代	32	〃 伊豆方分校	川口佑知子	61	中央特別支援	松見愛子	93	天竜 春野校舎	増山誠児
4	稲取	常盤定俊		〃 愛鷹分校	浪花 優	62	静岡南部特別支援	立石善行	94	袋井特別支援	平野麻紀子
5	伊東	鈴木章弘	33	吉原	柄内佐智子	63	焼津中央	長 慎一		〃 磐田見付分校	密岡有香
6	伊東・城ヶ崎分校	梅谷知寛	34	吉原工業	草野 純	64	焼津水産	田口志穂	95	天竜特別支援	奈良志保
7	伊東商業	稲葉 仁		富士	中澤智彦	65	清流館	高橋真子		浜松北	加藤佳靖
8	熱海	村崎 健	35	〃 (定)	木村悦子		〃 (定)	池谷裕史	96	〃 (定)	小杉俊雄
9	伊豆総合	伊東麻古人	36	富士東	稲垣庄二	66	藤枝西	河村 亮	97	浜松西	松坂直和
10	伊豆総合・土肥分校	高島久仁枝	37	富士宮東	渡邊直美	67	藤枝北	大石貴士	98	浜松南	高取宏昌
11	葦山	前田泰宏	38	富士宮北	渡邊卓也	68	島田	和田昭宏	99	浜松湖東	鬼石直也
12	伊豆中央	古瀬直哉	39	富士宮西	横川速人	69	島田工業	茂庭康子	100	浜松湖南	岩成善久
13	田方農業	落合美帆	40	富士岳館	芦川博将	70	島田商業	渡辺陽子	101	浜松江之島	佐下昌明
14	三島南	古長谷 稔	41	富士市立	深澤秀文	71	金谷	片岡力	102	浜松東	瀬々木宏枝
15	三島北	清水 晃	42	富士特別支援	安田慶子	72	川根	大井 茂	103	〃 (定)	荒木育美
16	三島長陵	高木真美		〃 富士宮分校	滝浪 香	73	榛原	増田真也	104	浜松工業	渡邊 順
	〃 伊豆高原分校	坂本 淳	43	清水東	佐々木光太郎	74	相良	曾根桂子	105	浜松城北工	杉浦厚雄
	〃 伊東分校	菅野直美	44	清水西	宇佐美恵美	75	藤枝特別支援	小林博昭	106	浜松商業	相澤 徹
	伊豆の国特別支援	宇佐美祐三	45	清水桜が丘	山本真三	76	〃 焼津分校	小林良朗	107	浜名	鈴木正浩
	〃 伊豆松崎分校	中野有子	46	清水特別支援	須田亜紀	77	吉田特別支援	畑和幸	108	浜北西	太田利実保
	〃 伊豆下田分校	加藤佳央	47	静岡	杉山輝光	78	掛川東	原 将人	109	浜松湖北	内山淳基
19	御殿場	勝俣伸一	48	〃 (定)	西村聡子	79	掛川西	戸塚芳之	110	〃 北久間分校	北野谷卓治
20	御殿場南	小西 章	49	静岡城北	奥津智穂	80	掛川工業	倉野直花	111	新居	小笠原昌之
21	小山	山崎明美	50	静岡東	小田庸介	81	横須賀	若月優子	112	湖西	田坂浩二
22	裾野	室伏真澄	51	静岡西	栗田透	82	池新田	山本哲也	113	浜松市立	横田尚久
23	沼津東	鈴木啓仁	52	駿河総合	中西栄作	83	小笠原	八木 剛	114	浜松視覚特別支援	森下あけみ
24	沼津西	芹澤豊光	53	静岡農業	中川貴男		掛川特別支援	谷麻衣子	115	浜松聴覚特別支援	中村美帆
25	沼津城北	高橋 功	54	〃 (定)	森田友紀	84	〃 御前崎分校	長島孝	116	〃 城北分校	鈴木奈美
26	沼津工業	鈴木国悦	55	静岡商業	中山苗江	85	遠江総合	富井敏光		〃 城北分校	向出真実
	〃 (定)	山岸春樹	56	静岡中央	加藤幸子	86	袋井	上田浩司	117	浜名特別支援	外山仁美
27	沼津商	吉利則子	57	静岡市立	天野友博	87	袋井商業	池本 雅	118	西部特別支援	松本浩一
28	市立沼津	寺田千晶	58	静岡視覚特別支援	岩科友理	88	磐田南	原 徹	119	浜北特別支援	森 紗貴
29	沼津視覚特別支援	杉本 舞	59	静岡聴覚特別支援	大橋典子	89	磐田北	村上友一	120	浜松みをつくし特別支援	森下義徳
30	沼津聴覚特別支援	米丸 栄子				90	磐田農業	小永井 滋			

令和4年度 静岡県高P連 役員名簿

No.	役職	地区世話人 研修会担当校理事	氏名	学校名	推薦地区 推薦者	No.	役職	地区世話人 研修会担当校理事	氏名	学校名	推薦地区 推薦者
1	会長		三輪高太郎	浜松北	理 事 会	25	理 事	世話人	戸塚芳之	掛川西	掛川
2	副会長		佐野孝之	沼津東		26		世話人・研修	富井敏光	遠江総合	磐田
3			諏訪部孝敏	富岳館		27		その他(協力校)	上田浩司	袋井	磐田
4			住吉 明	静岡農業		28		世話人・研修	高取宏昌	浜松南	浜松南部
5			中里 功	浜松北		29		その他(地区副会長)	加藤佳靖	浜松北	浜松北部
6	校長理事		小関雅司	静岡	30	その他(地区副会長)	和田安彦	浜松東	浜松北部		
7			渡邊紀之	沼津東	31	世話人・研修	柳井孝之	御殿場特支	特別支援P連		
8			寺島明彦	清水東	32	監 事		山崎明美	小山	沼津・駿東	
9		長井利樹	浜松北	33			栗田透	静岡西	静岡		
10	常務理事		堀田英正	事務局	34			田坂浩二	湖西	浜松南部	
11	理 事	世話人・研修	笹本美津代	松崎	理 事 会	No.	役職	氏名	学校名(所属)	推薦者	
12		世話人	前田泰宏	葦山		1	名誉会長	関 隆之	葦山	理 事 会	
13		研 修	伊東麻古人	伊豆総合		2	名誉顧問	芦川清司	静岡農業		
14		その他(協力校)	清水 晃	三島北		3		豊岡武士	焼津中央		
15		世話人・研修	寺田千晶	沼津市立		4		小山全司	沼津東		
16		研 修(副)	吉利則子	沼津商業		5	益谷尚豪	沼津東			
17		世話人・研修	柄内佐智子	吉 原		6	顧 問	池谷 浩	葦山		
18		その他(協力校)	稲垣庄二	富士東		7		江口幸生	静岡農業		
19		世話人・研修	山本泰三	清水桜が丘							
20		世話人・研修	天野友博	静岡市立							
21	その他(協力校)	中山苗江	静岡商業								
22	世話人・研修	池谷裕史	藤枝東								
23	その他(協力校)	長 慎一	焼津中央								
24	その他(協力校)	河村 亮	藤枝西								

高P連事務局

1	局 長	堀田英正	3	職 員	沼野尊子
2	次 長	赤石達彦	4	職 員	漆畑礼美

編集後記

今年の高P連創立60周年記念県総会において、来賓の第8代高P連会長の西原茂樹様が、ご自身が高P連の役員になるきっかけは「大変だけど社会のためになることだよ」という先輩の一言があったからと祝辞の中でおっしゃっていました。どんな職業も社会を構成する大切な使命を担っていますが、自分の仕事以外に、無償で社会のために何かをしている人たちがいるからこそ、更により良い社会になっていくものだと感じました。同様に、学校のPTA会長様をはじめ多くの役員の皆さま、お子様が学校を卒業しても高P連の役員をしてくださっている方々には、仕事やお休みの日にも都合をつけて、子供たちや学校のために活動をしていただいていることに本当に頭が下がります。未来を担う若者たちも、是非、社会のためになる何かができる人になってほしいと願います。(事務局長)